

平成 28 年度学校評価結果報告書
(中間評価)

広島県立呉特別支援学校
(本校)

目 次

- 1 様式3 平成28年度自己評価シート（中間評価）……………1
- 2 様式4 平成28年度自己評価（中間評価まとめ）……………4
- 3 様式7 平成28年度学校関係者評価シート（中間評価）…6

平成 28 年度自己評価シート(中間評価)

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	☑・定・通	Ⓢ・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 個別の指導計画が反映された授業づくり(知)					
	個別の指導計画の充実及び活用	将来を見据えた児童生徒の「身に付けさせたい力」及び支援方法を適切に設定し、保護者に説明できる。	A	前期の評価と後期の目標と支援方法を合わせて懇談時に提示できるように懇談日程を組んだ。	教育研究部 教務部 各学部 学年
	目標設定及び評価の改善	校内授業研究会及び公開授業研究会を通して研修を深める。	B	指導略案の評価について、第2回目の集計では「☆評価」、A54%、B35%で合計 89%であった。	

【評価結果の分析】

・学習指導略案の評価について、今年度第1回(5月 31 日～6月6日)の集計では、「☆評価」の「A達成できた」「Bほぼ達成できた」が合わせて 97%となっており、授業において児童生徒は、ほぼ目標を達成しているという結果になった。第2回(7月 11 日～7月 15 日)の集計結果では、「☆評価」の「A達成できた」「Bほぼ達成できた」が合わせて 89%となり、第1回と比較して数値が減少した。第2回の集計結果では、「☆評価」の「A達成できた」「C一部達成できた」「D達成できなかった」が第1回よりも上昇し、「Bほぼ達成できた」が第1回よりも減少している。また、「目標設定」については、「A目標は適当だった」が第1回の77%が第2回では70%に減少し、「B目標は低すぎた」「C目標は高すぎた」「D 目標が適切ではなかった」がそれぞれ上昇している。これらの結果や日々の指導略案の記述から、教職員の日々の自己評価、校内授業研究会や校内研修会のグループ協議等の積み重ね等により、自らの授業において、教員一人一人の目標設定に係る意識が向上し、適切な評価を行おうとする姿勢が育ってきたことを読み取ることができる。

・個別の指導計画に係る保護者懇談について、保護者の来校回数を精選するとともに、評価を踏まえた目標の設定を重点的に行うことで懇談内容の充実を図ることができた。

【今後の改善方策】

- ・これまでの研修内容を整理しながら、今後の授業づくりに生かせるようにするため、校内授業研究会のまとめを作成し、全体に周知する。
- ・今後、適切な実態把握に基づいた目標設定の在り方について、全教員が実施する細案による研究授業等を通じた継続的な取組が必要である。
- ・個別の指導計画の様式について、単元計画及び学習指導略案との関連性が明確になるよう、今後検討していく必要がある。

2 教育課程の改善と活用(知)					
	単元構成表、単元系統表を基にしたカリキュラムマネジメントの実施及び改善	昨年度作成した単元構成表、単元系統表、単元計画について授業の評価から見直し改善を図る。	A	単元計画の目標に対する達成度は、92%である。	教務部 教育研究部

【評価結果の分析】

・4月から夏季休業までに終了した各教科及び各教科等を合わせた指導について、各学部で単元計画に評価を記入した。単元計画の目標に対する達成度は 92%と高い数値となっており、昨年度作成した「単元構成表」「単元系統表」で整理した内容が適切に単元計画に反映されているためと思われる。

・「学びの変革」に係る研修会を学部ごとに実施し、「主体的な学び」について協議を行い、各学部における「目指す子供の姿」の共有化を図った。各学部で全員が意見を出し合い、協議を深めることができた。

【今後の改善方策】

・「目指す子供の姿」の実現のために、全教職員で単元終了後に単元計画に主な内容、授業形態、時数についての評価、課題、改善策を記入したものを、教育課程編成の基礎資料とする。課題や改善点を整理し 12 月までに、平成 29 年度の年間指導計画に反映させる。児童生徒の「主体的な学び」を引き出すための教育課程編成に向けて、今後も校内での熟議を十分に行いながら進めていく。

3 児童生徒の健康と安全(徳)(体)				
医療的ケアの適正な実施	医療的ケア連携会議の定期的な開催により、適正で安全な医療的ケアを実施する。	B	医療的ケア連携会議を 22 回実施し、担任、養護教諭、看護師が定期的に情報交換や留意事項の確認を行うことができた。医療的ケアを適正で安全に実施することができた。	医ケア検討委員会 保健安全部 教育研究部 各学部学年
基本行動の定着	授業規律の指導内容を見直し、日常生活スキル、社会生活スキル等の定着を目指した指導を実施する。	C	・「呉特支版 基本行動チェックリスト」について、7月集計時では、4月集計時よりも◎評価は上昇しているが、目標とする数値には届いていない。 ・授業や検定等の場面ではできつつあるが、他の場面でも応用できることが課題である。	教育研究部 進路指導部 生徒指導部 各学部学年
情報の適正な管理 支援機器の活用	個人情報の適正管理 支援機器の効果的な活用	B	・教育相談等、教務事務関係に関わる個人情報文書について、所定の鍵付きロッカーに保管し、適正に管理を行った。 ・支援機器の貸し出し簿の整理を行い、貸し出し方法の周知を図った。教育研究部の ICT 研修を受け、使用率が上がったが、返却に課題がある。 ・個人情報の管理については、写真の取り扱いなど今一度確認が必要である。	教務部 教育相談部 総務部 教育研究部

【評価結果の分析】

- ・広島県立の特別支援学校では初めてのケースとなる医療的ケア(シリンジポンプ)が必要な児童が入学し、管理職・担任・看護師・教育相談担当者・養護教諭が密に連携を取り、慎重に学校生活をスタートさせた。医療的ケアの必要な在校生についても、医療的ケア連携会議を中心としながら、日常的な連絡を取り合うことで、医療的ケアの適正な実施を行うことができています。
- ・「呉特支版 基本行動チェックリスト」の活用について、4月に「呉特支版 基本行動チェックリスト」を基にした各児童生徒の実態調査を行った。「身だしなみ」「整理整頓」「時間管理」の3つの項目において、支援の有無を問わず、「Aいつも主体的に行う」の児童生徒数はかなり少ない結果(3項目平均3%)となっている。7月の集計の結果では、「Aいつも主体的に行う」の数値が上昇(3項目平均 6.7%)し、「Bほぼ主体的に行う」の数値も上昇(3項目平均 20.9%から 40.1%)している。また、C、D、の数値は減少という変化が見られる。これは、チェックリストという形で、明確に児童生徒が目指すべき姿が示されていることで、教員及び児童生徒共に目標が明確になり、日常生活の指導において到達目標を意識することができるようになったためであると考えられる。また、セルフチェック(児童生徒の実態により、指導者と一緒にチェック)する方法で児童生徒が自己評価をすることにより、現在の自分の姿と目指す姿を比較し、目標達成のための意欲が向上したことなどが、この数値の変化に効果を与えたと考える。児童生徒一人一人の推移をみる推移表を見ると、4月と比べて現状維持という数値も多く、また、わずかながら下降したという評価もあることから、すべての児童生徒の主体性が向上したという状態ではないということも分かる。
- ・広島県特別支援学校技能検定・校内検定「チャレンジ呉！」の受検に向けた指導により、スキルの向上・定着が見られるようになり、授業開始終了時の挨拶や言葉遣い等について着実にできるようになってきている。
- ・パティオカフェを高等部全体で行うことで、外部の方をおもてなしするためにふさわしい姿勢・態度に係る指導について、単一障害Ⅱ類型及び重複学級の生徒に対してより図られるようになった。
- ・教育相談後の文書の扱いの流れについては、分掌内で確認できており、保管場所についても共通認識して扱うことができています。
- ・教育相談の受付は電話で行い、教育相談受付票については、個人情報保護の観点から持参を取りやめ、来校時に本校で記入する方法に変更した。
- ・教務事務関係の個人情報書類は、事務室の耐火金庫を保管場所とし、適正に保管管理できている。在学生の個別の教育支援計画については、職員室の鍵のかかる棚に保管している。
- ・個人情報の適正管理の写真の取り扱いについては、web ページや通信、アルバム等への掲載に際して、保護者からの承諾書を得て適正に管理・運用できているが、嚴重を期すため保護者に対し再度確認をする必要がある。
- ・夏季休業中に「ICT 機器活用研修会」を実施した。教育研究部と総務部から ICT 機器を活用した実践例や本校における ICT 機器の現状について説明した後、グループに分かれ指定された単元目標を達成するためにどの ICT 機器をどのように活用したら良いかについて、実際の ICT 機器を操作しながら協議し、全体で発表した。教職員による主体的で学びの多い研修会となった。
- ・教育研究部の ICT 機器活用研修を受け、支援機器の活用率は上がった。しかし、貸し出し・返却のルールについて周知したにも関わらず、返

却時に問題があるような場面も見られるので、今一度周知する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・医療的ケアの適正な実施のため、今後も定期的に医療的ケア連携会議を開催し、担任・養護教諭・看護師による情報の共有化と取組方法の一致を図っていく。
- ・「呉特支版 基本行動チェックリスト」について、児童生徒の設定目標や指導方法などの見直しを行うことを全教職員に周知する。
- ・授業や検定等の場面だけでなく、場面が変わっても実践できる力の育成を目指して、パティオカフェ、就業体験・職場実習、校外学習等の機会を通して、学級での指導を徹底していく。
- ・今後、入学者選抜及び就学予定者の個人情報について、分掌内や全体での注意喚起及び適切な管理を行う。また、個人情報(教育相談記録等)については、新年度担任が決まり次第、適正に引き継ぎ個人ファイルでの保管をする。
- ・写真の取り扱いなどについては校内規定を基に、教職員及び保護者に向けて再度周知する。
- ・障害特性に応じた授業の充実を目指して、今後もICT 機器活用の研修会を継続して行う。支援機器の貸し出し・返却のルールについては、再度周知する。

平成 28 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	☎・定・通	☎・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 個別の指導計画が反映された授業づくり

- 日々の授業について、学習指導略案に評価欄を設け、本時目標に対し「評価」「目標設定」「手立て」の3つの観点で授業者が授業後に評価を行い、今年度年間3回の評価数値の集計を実施することとしている。今年度第1回の集計では、「目標を達成できた」「ほぼ達成できた」が合わせて97%となっており、授業において児童生徒は、ほぼ目標を達成しているという結果になった。第2回の集計結果では、「目標を達成できた」「一部達成できた」及び「達成できなかった」が第1回よりも上昇し、「ほぼ達成できた」が第1回よりも減少している。また、「目標設定」の評価については、「目標は適当だった」の数値が減少し、「目標は低すぎた」「目標は高すぎた」「目標が適切ではなかった」がそれぞれ上昇している。これらの結果や日々の指導略案の記述から、教職員の日々の自己評価、校内授業研究会や校内研修会のグループ協議等の積み重ね等により、自らの授業において、教員一人一人の目標設定に係る意識が向上し、適切な評価を行おうとする姿勢が育ってきたことが考えられる。
- 個別の指導計画に係る保護者懇談について、保護者の来校回数を精選するとともに、評価を踏まえた目標の設定を重点的に行うことで懇談内容の充実を図ることができた。

(2) 教育課程の改善と活用

- 4月から夏季休業までに終了した各教科及び各教科等を合わせた指導の単元について、単元計画に評価を記入し、単元ごとに振り返りを行なった。単元計画の目標に対する達成度は92%と高い数値となっており、昨年度作成した「単元構成表」「単元系統表」で整理した内容が適切に単元計画に反映されているためと思われる。
- 「学びの変革」に係る研修会を学部ごとに実施し、「主体的な学び」について協議を行い、各学部における「目指す子供の姿」の共有化を図った。各学部で全員が意見を出し合い、協議を深めることができた。

(3) 児童生徒の健康と安全

- 広島県立の特別支援学校では初めてのケースとなる医療的ケアが必要な児童が入学してきたが、管理職・担任・看護師・教育相談担当者・養護教諭が密に連携を取り、慎重に学校生活をスタートさせた。医療的ケアの必要な在校生についても、医療的ケア連携会議を中心としながら、日常的な連絡を取り合うことで、医療的ケアの適正な実施を行うことができている。
- 「呉特支版 基本行動チェックリスト」の活用について、4月の実態調査では、主体的に行う児童生徒数はかなり少ない結果となっていたが、7月の集計の結果では、数値が大幅に上昇した。これは、チェックリストという形で、明確に児童生徒が目指すべき姿が示されていることで、教員及び児童生徒共に目標が明確になり、日常生活の指導において到達目標を意識することができるようになったためであると考えられる。また、児童生徒が自己評価をすることにより、現在の自分の姿と目指す姿を比較し、目標達成のための意欲が向上したことなどが、数値の上昇につながったと考えられる。しかし、集約結果からは現状維持やわずかながら下降したという評価もあり、すべての児童生徒の主体性が向上したという状態ではないことから、さらなる分析が必要である。
- 広島県特別支援学校技能検定・校内検定「チャレンジ呉！」の受検に向けた指導により、スキルの向上・定着が見られるようになり、授業開始終了時の挨拶や言葉遣い等について着実にできるようになってきている。
- パティオカフェを高等部全体で行うことで、外部の方をおもてなしするためにふさわしい姿勢・態度に係る指導について、単一障害Ⅱ類型及び重複学級の生徒に対してより図られるようになった。
- 教育相談後の文書の扱いの流れについては、分掌内で確認できており、保管場所についても共通認識して扱うことができています。
- 教育相談の受付は電話で行い、教育相談受付票については、個人情報保護の観点から持参を取りやめ、来校時に本校で記入する方法に変更した。
- 教務事務関係の個人情報書類は、事務室の耐火金庫を保管場所とし、適正に保管管理できている。在学生の個別の教育支援計画については、職員室の鍵のかかる棚に保管している。
- 個人情報の適正管理の写真の取り扱いについては、web ページや通信、アルバム等への掲載に際して、保護者からの承諾書を得て適正に管理・運用できているが、厳重を期すため保護者に対し再度確認をする必要がある。
- 夏季休業中に「ICT 機器活用研修会」を実施した。教育研究部と総務部から ICT 機器を活用した実践例や本校における ICT 機器の現状について説明した後、グループに分かれ指定された単元目標を達成するための ICT 機器の活用方法について、実際の ICT 機器を操作しながら協議し、全体で発表した。教職員による主体的で学びの多い研修会となった。
- 教育研究部の ICT 機器活用研修を受け、支援機器の活用率は上がった。しかし、貸し出し・返却のルールについて周知したにも関わらず、返却時に問題があるような場面も見られるので、今一度周知する必要がある。

2 今後の改善方針

- 今後、適切な実態把握に基づいた目標設定の在り方について、全教員が実施する細案による研究授業等を通じた継続的な取組が必要である。

- ・ 授業改善について、これまでの研修内容を整理しながら、今後の授業づくりに生かせるようにするため、校内授業研究会のまとめを作成し、全体に周知する。
- ・ 個別の指導計画の様式について、単元計画及び学習指導略案との関連性が明確になるよう、今後検討していく必要がある。
- ・ 「目指す子供の姿」の実現のために、全教職員で単元終了後に単元計画に主な内容、授業形態、時数についての評価、課題、改善策を記入したものを、教育課程編成の基礎資料とする。課題や改善点を整理し 12 月までに、平成 29 年度の年間指導計画に反映させる。児童生徒の「主体的な学び」を引き出すための教育課程編成に向けて、今後も校内での熟議を十分に行いながら進めていく。
- ・ 医療的ケアの適正な実施のため、今後も定期的に医療的ケア連携会議を開催し、担任・養護教諭・看護師による情報の共有化と取組方法の一致を図っていく。
- ・ 「呉特支版 基本行動チェックリスト」について、児童生徒の設定目標や指導方法などの見直しを行うことを全教職員に周知する。
- ・ 授業や検定等の場面だけではなく、場面が変わっても実践できる力の育成を目指して、パティオカフェ、就業体験・職場実習、校外学習等の機会を通して、学級での指導を徹底していく。
- ・ 今後、入学者選抜及び就学予定者の個人情報について、分掌内や全体での注意喚起及び適切な管理を行う。また、個人情報(教育相談記録等)については、新年度担任が決まり次第、適正に引き継ぎ個人ファイルへの保管を徹底する。
- ・ 写真の取り扱いなどについては校内規定を基に、教職員及び保護者に向けて再度周知する。
- ・ 障害特性に応じた授業の充実を目指して、今後も ICT 機器活用の研修会を継続して行う。支援機器の貸し出し・返却のルールについては、再度周知する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・ 医療的ケアにかかわって、感染症予防に向けた取組を一層進め、医療的ケア連携会議の内容の充実を図り、安全かつ適切な実施に努める。
- ・ 基本行動の定着に向けて、家庭との連携をさらに深めていく。
- ・ 単元の評価を次年度の教育課程編成に活用するだけではなく、次の単元の改善に生かしていけるような工夫が必要である。
- ・ 教室等の学習環境の改善について、改善の見られる学級とそうでない学級があるため、一斉に取り組むことができるよう方策を練っていく。
- ・ 作業学習において、生徒の意欲を高めることができる作業内容の工夫を行い、授業改善を図っていく。
- ・ 今後とも、児童生徒が活動する姿を発表し、活躍できる場を設定していく。

平成 28 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 28 年 10 月 日

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	☑・定・通	Ⓢ・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定については、保護者の目線・思い等と剥離することのないよう配慮していただければと思います。 ・評価基準を明確にするなど、評価内容と評価基準の工夫を進めてください。 ・「基本行動チェックリスト」の評価基準について、成長の度合いも考慮してはどうでしょうか。 ・概ね適切だと思います。 ・医療的ケアの取組について、連携会議の回数以外の評価指標を工夫していただければと思いました。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本行動の評価の「全面的に支援を受けてできる」と「いつも主体的に行う」の「できる」と「行う」のクロスしたところの生徒の姿を明確にすると良い。 ・基本行動の定着で成長の度合いを評価すれば、評価はもっと上がるのではないのでしょうか。 ・ていねいに粛々と実践されていると思います。 ・概ね適切だと思います。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の評価のサイクルが動いているが、単元の評価が次の単元に生かされることが大切である。 ・適切に取り組みられています。 ・基本行動チェックリストについての評価基準の項目が多すぎて、セルフチェックが難しいのではないかと思います。評価基準項目の見直しを図ることで、わかりやすくなり評価が上がるのではないかと感じました。 ・ICTについては研修もされ、これから期待するところです。現場での有効な活用を願います。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画の充実及び活用」は、保護者からの評価も必要ではないか。 ・よく分析されています。 ・基本行動チェックリストの評価で、集計結果だけではなく、実際にチェックしたセルフチェック表を見せていただきたいと思います。具体的にわかりにくい部分がありました。 ・概ね適切だと思います。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題をよく把握されています。 ・評価結果に対して適切な内容だと思いました。 ・安全管理についてさらに改善を図っていただきたいと思います。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表の場が広がる様子に心強く思います。もっとたくさんの人に知ってもらいたいと強く思いました。先生達のアイデアも良いです。良い伝統になるようにしてほしい。 ・生徒の表情が明るく、意欲的に学習に取り組んでいると思います。今後も目標達成に向けて頑張ってください。 ・数字に表れる評価だけではなく、内容を十分評価し改善していただければと思います。 ・目標、指標、計画の設定は素晴らしいので、達成に向けてもう少し細かい分析が必要だと思いました。授業参観シートを活用しながら、学部を越えていろいろな授業を参観し合い、児童生徒の主体性を引き出すよう授業改善を進めていただきたいと思います。 ・成果と課題がわかりやすいです。 ・スライドに見えにくい文字がありました。ゆっくりわかりやすく説明していただけると良いと思います。 ・改善すべき点はきっちり改善し、前向きに取り組んでおられ、学校の変化が感じられました。 ・年々、良い学校になっていると感じます。教職員、児童生徒ともにやるべきことが明確なので、目標、計画、評価も適切に行われているのだと思います。